

2015 年度【第 5 回】学生観光論文コンテスト

テーマ A：観光立国で日本を元気にする方策について、私の提案

世界の外国人留学生は見た！

～外国人留学生の視点から見た新観光地の可能性～

成城大学 社会イノベーション学部
政策イノベーション学科 一年 大崎未来
安江 誠

目次

はじめに

第1章

第1節 観光地の定義

第2節 日本の観光政策

第3節 新観光地発掘における外国人留学生の意義

第2章 現状

第1節 外国人留学生の現状

第2節 外国人留学生の受け入れ環境

第3節 地方の住環境について

第4節 大学間での単位交換

第5節 地方大学の観光学部の現状

第3章 方策

第1節 世界の外国人留学生は見た！プロジェクト

第2節 プログラム内容

第3節 問題点・解決方法

第4節 観光地発掘コンテスト

まとめ

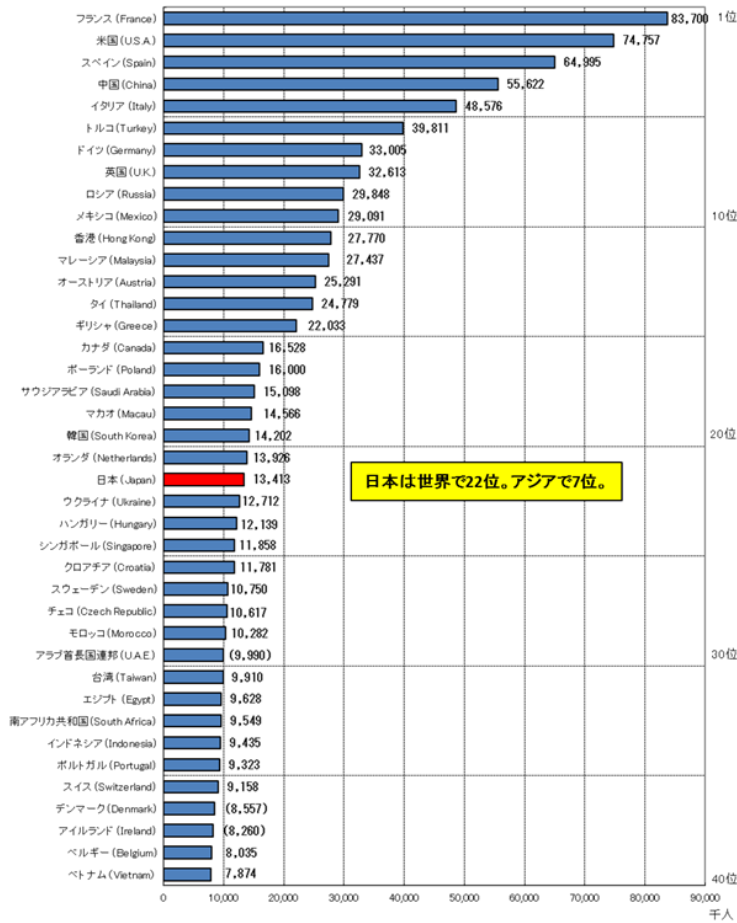
はじめに

近年日本を訪れる外国人観光客数は伸び続けている。日本政府観光局(JNTO)によると、2015年9月時点で度訪日外客数は1341万人に達し、前年度の1036万人の1.3倍にも増えた。2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催や、政府の訪日外国人観光客数の目標を2000万人とした観光政策により、今後も更なる外国人観光客の増加が期待できる。一方で、世界各国・地域別の外国人訪問者数ランキングでは、1位のフランスが8370万人、2位のアメリカが7475万人となっている。日本は22位と世界でみると外国人観光客数はまだまだ少ないのが現状だ。日本が本当に観光立国を目指すのであれば、更なる外国人観光客の誘致が必要となってくるだろう。

今後の課題として、新たな観光地発掘が挙げられる。現在、東京、京都などといった日本の有名な観光地を回るのが外国人観光客にとって主流である。東京・箱根・富士山・名古屋・京都・大阪を回るゴールデンツアーがあり、日本の伝統、自然や大都会を体感できると人気である。しかしながら、このような王道観光地を前面に打ち出すことは面白味がなく、観光客は見飽きてしまうだろう。また観光客の増加により、主要都市では宿泊するのが難しくなっているのも事実だ。従来の観光地ではない新たな観光地を地方に創出することによって、更なる外国人観光客誘致とそれに付随する地方観光の活性化を考えていきたい。

そこで今回は外国人留学生の活用に焦点を当てて考えてきたい。日本に対しての関心の高い外国人留学生による、外国人ならではの視点から、日本の新たな観光地の可能性を見出し、国内、海外に発信することによってさらなる観光客誘致をしていきたい。

世界各国・地域への外国人訪問者数(2014年 上位40位)
Comparison of Inbound Tourism by Country/Area for 2014



出典：世界観光機関(UNWTO)、各国政府観光局 作成：日本政府観光局(JNTO)
 注1：本表の数値は2015年6月時点の暫定値である。
 注2：アラブ首長国連邦、デンマーク、アイルランドは、2014年の数値が不明であるため、2013年の数値を採用した。
 注3：アラブ首長国連邦は、連邦を構成するドバイ首長国のみ数値が判明しているため、その数値を採用した。
 注4：本表で採用した数値は、韓国、日本、台湾、ベトナムを除き、原則的に1泊以上の外国人訪問者数である。
 注5：外国人訪問者数は、数値が違って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る。
 注6：外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合があるため、これを比較する際には注意を要する。
 Source: UNWTO and National Tourism Offices Compilation: Japan National Tourism Organization (JNTO)

図1：世界各国、地域への外国人訪問者数ランキング

第1章

第1節 日本の観光

現在安倍政権の戦略に、日本を観光立国にするため2030年までに外国人観光客3000万人に増やす目標が掲げられている。外国人観光客による地域の活性化や雇用を生み出し、経済成長を図るのが目的だ。はじめに述べたように、外国人観光客数は年々増加しており、今後も観光客が増えていこう。しかしながら、すべての地域で外国人観光客が増えているわけではない。観光庁の国籍・地域(21区分)別都道府県訪問率では、東京(50.1%)、大阪(43.8%)、千葉(40.7%)と大都市が上位を占めている。一方で、岩手、

群馬、福井、島根（すべて0.1%）と地方と大都市とで大きな差がある。地方の活性化・雇用を目指すのであれば、地方に外国人観光客を呼び込む必要がある。

第2節 観光地の定義

ここでは観光地の定義を「外国人から見てクールだと思われる場所」としたい。このクールは「かっこいい」という意味の他に、「面白い、奇妙」といった意味も含まれる。日本には世界文化遺産に登録された富士山や古くからの歴史が残る清水寺など多くの観光名所が存在する。一方で世界最大級の旅行サイトであるトリップアドバイザーの「外国人観光客に人気の日本の観光地スポット 2014 ランキング」によると、渋谷のセンター街や新宿のロボットレストランなど日本人からしたら意外な場所がランクインしているのも事実だ。特に渋谷のスクランブル交差点は外国人観光客に人気であり、理由としてはあまりの人の多さと日本人が誰にもぶつからずに渡りきる姿をクールだと感じるからだそう。今では人ごみの中誰にもぶつからずに交差点を渡りきる動画がネット上に多々アップされているほどである。このように外国人から見た独特な視点を生かした新たな観光地発掘をしていけるだろう。

第3節 新観光地発掘における外国人留学生の意義

新たな観光地発掘に外国人留学生の存在を活かそう考えた理由は3つある。1つ目は上記にも述べたように、「外国人から見た視点」が重要であるからだ。2つ目は外国人留学生は少なからず、「日本について勉強したいという意思」を持ち合わせているからだ。日本を留学先と選んだ理由として大半の学生は「日本社会に興味があり、日本で生活したかったため」と答えている。彼らは日本の歴史、文化や自然等について学ぶ意欲が高い。最近では日本のアニメが好きで日本に留学に来る外国人も多い。彼らの日本の対する知的好奇心を新たな観光地発掘に生かせると考えた。3つ目に観光地を模索するうえで、留学生は日本語学習を行っているため、通常の外国人より日本人とのコミュニケーションが取りやすいと考えられる。意見を共有するうえで日本語学習が前提にあるのは大切であろう。

第2章 現状

第1節 外国人留学生の現状

日本学生支援機構「外国人留学生在学状況調査」によると2014年に18万4155人もの外国人留学生が来日している。2000年代に入って徐々に増加し、その後は、2011年の東日本大震災の影響により再び減少しものの、2013年と比べ9.5%増加した。政府が「留学生30万人計画」を発表し、外国人留学生が日本に来やすくなったことにより、今後さらに増加

していくと考えられる。

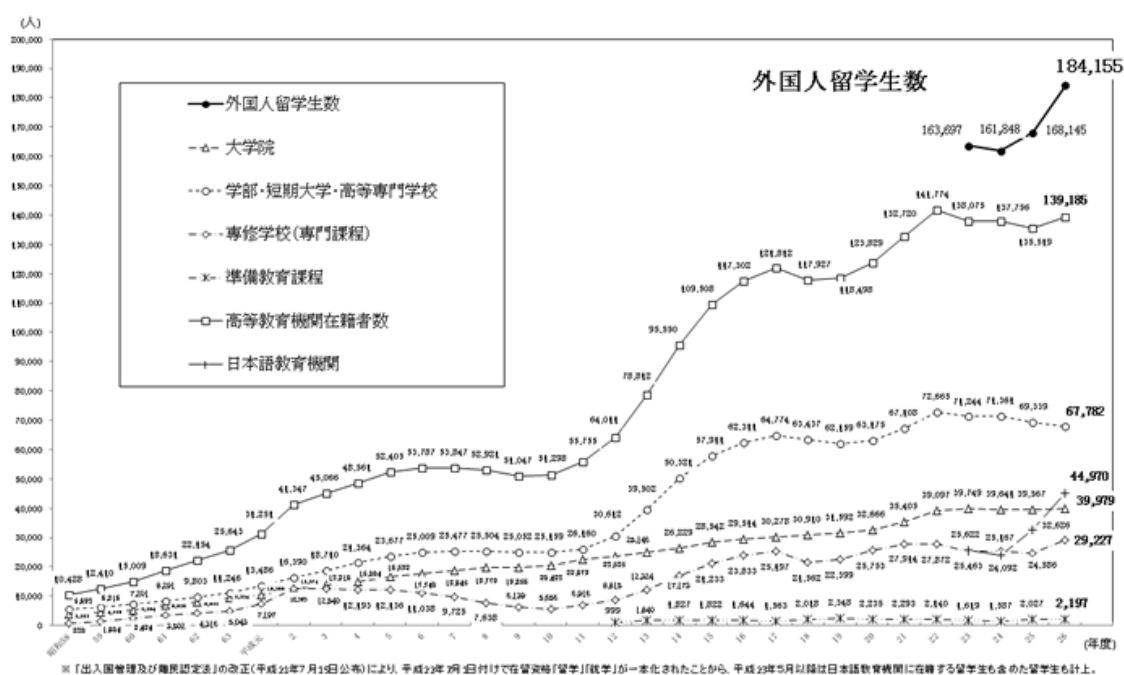


図 2：在籍段階別留学生推移のグラフ

留学生の大学院、大学生数だけで 2014 年は 10 万 5844 人と多く、彼らを有効に活用することによって新たな観光地発掘をしていきたい。

第 2 節 外国人留学生の受け入れ環境

横浜大学の調査結果では、外国人留学生の中で一番困っていることは、家賃や学費という回答が最も多かった。そこでまず外国人留学生のお金事情をみていきたい。私費留学生は、文部科学省外国人留学生奨励給付制度により、大学生、大学院生は月額 48,000 円の交付を受けることができる。国費外国人留学生には 2 年間、月額 143,000 円の交付を受けることとなる。また支出・支出についてだが、日本学生支援機構の調べでは、外国人留学生の平均的な収入は月額 140,000 円であり、移住地域別だと、関東地域が 154,000 円と全国で最も高く、四国地方は 110,000 円と最も低かった。平均的な支出は月額 140,000 円であり、民間のアパートやマンションが住まいという留学生の支出が最も高く、平均月額 163,000 円であった。最も低いのは、国立大学に通い大学の学生寮に住んでいる学部レベルの学生で、平均月額は 86,000 円であった。

次に外国人留学生の住環境についてみていきたい。日本に留学中の外国人留学生 14 万人のうち、公的宿舎に入居している留学生の割合は 23%、それに対し、民間宿舎・アパート等に入居している留学生の割合は 77%に上る。そして、その民間宿舎・アパート等に入居している留学生のうち、大学宿舎への入居を希望したものの通らなかったという人は全体の 33.3%、大学に宿舎が無く、そもそも希望したくても出来なかった人も 36.5%に上る。

民間宿舎・アパート等に入居している留学生のうち、約7割の留学生が大学宿舎への入居を望んでいたものの、それが叶わなかったということになる。このように、住環境に関しては、不満が残った留学生が多いことが分かる。

第3章 地方の住環境について

日本への留学生の多くは、関東に集中している。平成26年5月1日の時点で、日本への留学生の52.7%の97,057人が関東の大学等に在籍している。関東の中でも特に、日本の社会の中心である東京には69,903人が在籍しているのだ。これは日本の留学生全体の約38%に相当する値で、いかに東京に留学生が集中しているかを浮き彫りにしている。前節で触れたように、留学生の住居事情には厳しい現状があるが、それもこの留学生の関東の、特に東京の大学への留学生の集中に起因すると考えられる。これだけの人数が一カ所に集中すれば、住環境が不足するのも必然なのだ。このように、地方が留学生数で東京に遠く及ばない事から、地方には留学生を呼び込む魅力がないのだ、と思われるかもしれないが、そういうわけでは無い。まず、地方は首都圏に比べ物価が安く、留学生の住居費の平均月額を見てみても、全国平均は35,000円なのに対し、関東地方での平均は41,000円と高い。毎月6,000円の差があるため、年間にすると72,000円の差となり、裕福でない学生にとってこの差は小さなものではない。また、地方には豊かな自然環境や地域文化など、首都圏とは異なる魅力が多くある。これらの魅力を武器に、地方へ留学生を呼び込むことで、首都圏への集中の解消に繋がり、地方自治体も、地域の活性化を狙うことが出来るだろう。

第4節 大学間での単位交換

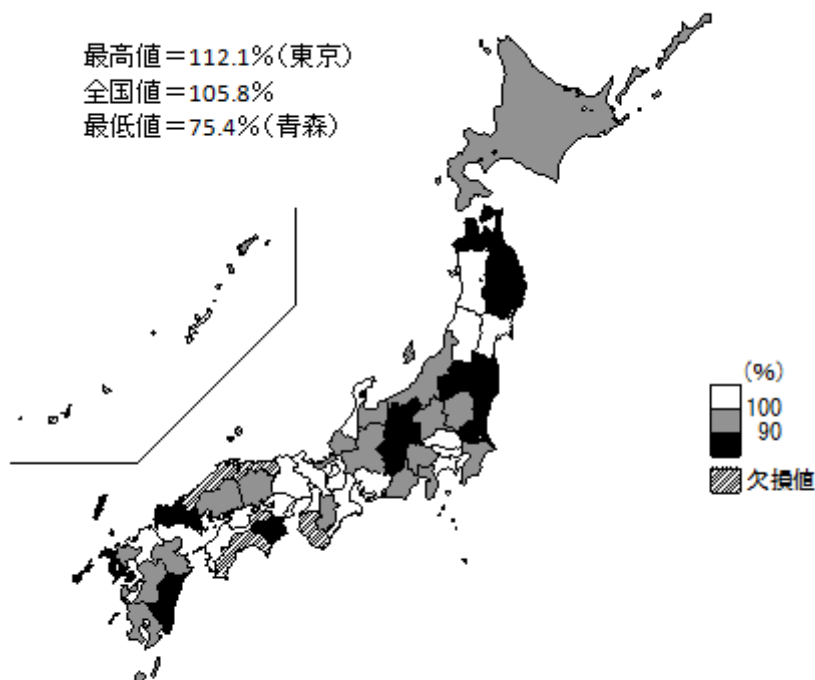
大学生・大学院生が海外の大学に留学した際、提携先の大学で取った単位を所属大学の卒業単位に認定する、単位交換・認定制度がよく使われている。また、日本の大学間でも単位の交換はなされているのも事実だ。例として、京都府京都市周辺に所在する大学・短期大学で単位交換が行える日本最大の単位交換制度「大学コンソーシアム京都」や、池袋の五大学が提携し、早稲田大学の豊富な講義によって講義数が日本1の制度「f-campus」が挙げられる。国内様々な提携先があるが、それぞれの地域単位での協定が一般的である。そのため、どの地方の大学で講義を受け、単位を得たとしても、所属大学が認定できるような全国にまたがった大学間協定が必要となってくる。

第5節 地方大学の観光学部の現状

現在80以上の大学に観光学部や観光学を学べる学科がある。その中には、かなりその土地に根付いた観光学部も存在する。このような大学の学部は地方の観光産業を活性化させる新たな可能性を秘めている。一方で、地方大学での入学者数の定員割れは深刻な問題となっている。日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、26年度に入学定員割れとなった私立大学は4割以上あることが分かった。10年度の35校から増え始め、志願者・受

験者・合格者数が増加したのにも関わらず、入学者は減り、現在では 265 校の大学で入学定員割れとなっている。ここには少子化による、入学者の減少が問題だろう。さらに地方大学の現状は厳しく、大都市圏の入学状況は、入学者数が入学定員を超え、補充率が 105.6% となっているのに対し、地方大学の補充率は 95.8% となっている。図 3 でもわかるように、地方では入学定員が少ないのがわかるだろう。そのため地方大学は「ネット出願」や「併願」等の対策を実施しているが、入学者は年々減少しつつある。第 3 節でも述べたように、このような地方大学にとって外国人留学生が増えることは朗報であり、積極的に受け入れを促していけるであろう。

私大の定員充足率マップ



*計算式=当該県の私立大学の学生数/定員数
資料:読売新聞教育取材班『大学の実力2015』中央公論新社
作成者:舞田敏彦(@tmaita77)

図 3 : 私大の定員充足率マップ

第 3 章 方策

第 1 章、第 2 章を踏まえ、日本が観光立国になるためにはどうしていきべきか考えたい。まず 1 つ目に、外国人留学生に新たな日本の観光地発掘を促してもらう「世界の外国人留

学生は見た！プロジェクト」を推奨する。2つ目にそのプロジェクトによる「観光地発掘コンテスト開催」を提案したい。

第1節 世界の外国人留学生は見た！プロジェクト

この「世界の外国人留学生は見た！プロジェクト」という名前はMBS毎日放送による「世界の日本人妻は見た！」というバラエティ番組からヒントを得た。番組の内容は世界に住む外国人と結婚した日本人妻が、日本人から見て驚く、その国の事情、文化や習慣を紹介していく番組だ。この番組には必ず日本人から見たら驚くようなことやものが出てきて、その国とのギャップが面白いポイントである。ここでは日本人からの視点から見た外国となっているが、第1章で述べたように外国人から見た日本の視点やそこから生まれる自国とのギャップの面白さは存在するだろう。それを生かした新観光地の発掘が進むことを期待している。

1章で述べたように外国人からみた日本のクール場所を新たな観光地として、外国人観光客の誘致を行っていききたい。その新観光地発掘を担うのは、日本で勉学に励み、外国人ならではの視点を持ち合わせた外国人留学生だ。外国人留学生が、地方大学に一定期間交換留学をし、その地域の観光を行い、地元の日本人学生と連携しながら新たな観光地発掘を考えていきたい。前提として、本籍は海外の大学にあり、日本に留学に来ている外国人留学生は対象にしない。将来的には彼らも日本の大学間の単位交換制度を適用していききたいが、初期段階として、まずは日本の大学に本籍を置いている外国人大学生・大学院生を対象にしていききたい。

初めに大学間で外国人留学生を交換できる制度を整える。本籍は所属大学に置き、一定期間の間他大学に留学できるようにする。希望者を対象に行い。期間としては3ヶ月～1年間とする。外国人留学生が留学先の大学周辺の観光の現状を知り、そこから観光地を見つけ、研究していく上で最低限必要な時間だと考えた。また留学先で得た単位を所属大学の卒業認定単位として認める制度も同時に整える必要がある。次に、留学先の住まいを決める。ここでは大学が協定を行っている宿舎やホームステイを想定している。最後に留学先の大学で観光学部又は、観光に関連する講義、研究が行える学部にも所属する。その際、留学先の大学生・大学院生ともに、フィールドワークやディスカッションを活かし、その地域の観光の現状や新たな観光地発掘を一緒にしている。それによって、外国人留学生はその土地の文化、自然や歴史に親しみながら、その土地について考えることができるであろう。また、現地の日本人学生もその土地を再度見直すことができることと、外国人留学生の新たな視点から新たな観光地の可能性を探ることができるだろう。

第2節 プログラム内容

「世界の外国人留学生は見た！プロジェクト」の留学プログラムは3段階構成とする。まず、その地域の現状を知ることから始める。主に大学での講義を中心にその地域の観光

や産業などといった現状を学ぶ。次に、実際に日本人学生と共にその地域の観光を行い、面白いと考えたところを見つける。最後に、新たに発見した面白いポイントを活かし、今までの観光と新たな観光地の可能性を研究していきたい。このプログラムにプラスアルファとして、外国人留学生が興味を持っていた分野の学習を同時に行えるようにしたい。例えば、アニメが好きであれば、好きなアニメの舞台となった地に行けるようにする。そうすることで外国人の視点でアニメを活かした観光のプランニングが行えることとなるだろう。外国人留学生が「世界の外国人留学生は見た！プロジェクト」に参加する動機づけなると考えた。

このプロジェクトの主な目的は、外国人の視点から見た新たな観光地の発見である。そのため全体でいうと、外国人留学生は「目」のような存在を果たしている。そして留学生自身もそうであるが、日本人学生はそこから「考える」ということに重きを置いている。自分の地域の活性化、日本の観光について深く考え、学ぶいい機会である。

第3節 問題点・解決方法

問題点として、外国人留学生の日本人学生や地域の方言の言葉の壁が挙げられるが、外国人留学生が日本語学習を日々行っていることと、基本的に主な行動場所は大学であるため、かなり方言に苦しむということはないだろうと考えられる。また、学費は奨学金に加え、「国内留学費」として国内留学した際に生じる費用を全面的に国が負担する制度を整える必要があるだろう。住環境に関しては、大学の宿舎やホームステイを想定しているが、その他にもアパートなどが考えられる。第2章の地方の住環境で述べられているように、地方に住むことは物価的にも、自然が豊かであるという面でもよいと考えられるのと、また「国内留学費」による手当によって負担が少なくなるだろう。

第4節 観光地発掘コンテスト

2つ目に「世界の外国人留学生は見た！プロジェクト」で得られた研究成果を「観光地発掘コンテスト」で発表する機会を設ける。外国人留学生や日本人の観光地研究チーム、自分たちが発見した、考えた新たな観光地のプレゼンを行い、地区ごとや全国で順位を決める。優秀チームには旅行会社等企業がバックアップをし、本格的に新しい観光地としてのプランニングを行えるようにする。企業にとっては新たなビジネスチャンスであり、地方自治体としても観光地が新たにできることは地域活性化につながるため注目されるであろう。また、優勝した研究チームは自分の所属大学の広報としての役割を果たすだろう。その大学でも取り上げられ、学生内での注目度が高まることによって学生の観光客誘致にもつながるだろう。さらに、優勝した外国人留学生の母国メディアが注目することにより、更なる外国人観光客誘致につながっていくであろう。この観光地発掘コンテストを行っていくには、観光庁のアナウンスや企業の積極的な参加が求められてくるだろう。

まとめ

浅草の仲見世通りを歩いた際、ある外国人観光客と会話をする機会があった。「どこへ行ったのか。」と私が質問すると、彼らは「東京スカイツリーに行った。」と答えた。私はその時、高いタワーは世界中どこにでもあるのになぜ日本に来てまで行かなくてはならないのか、と考えてしまった。外国人に人気のあるとされる有名な観光地は、日本人の感覚の押し付けであって、実は違うのではないかと改めて考え直してしまったのだ。第1章でも述べたように、日本人と外国人との感覚の違い、いくら日本人が自分たちが思う名所を紹介したところで、外国人にその観光地の魅力が伝わっているかは疑問である。しかしながら日本人と外国人との感覚のギャップが新たな発見をもたらし、新観光地をつくっていくのも確かだ。外国人留学生の小さな発見から、日本人が観光地としての可能性をいかに考え、発展させることが今後のカギとなっていこう。地方に新たな観光地が生まれれば、外国人観光客の誘致はより一層増し、地方の活性化と雇用を生み出すこととなるだろう。外国人留学生が地方に一定期間滞在することによる経済効果や、留学生と学生をはじめとした地元の人々との相互作用、地域に存在する種々の資源のマネジメントなど、私たちが本論文で主張した内容が展開されることで、日本にとってデメリットよりもメリットの方が上回る結果となることは想像に難くない。

参考文献

・地方留学の利点と課題 佐藤由利子—大分, 秋田, 鳥取の留学生の交流状況と意識に関する調査から—広島大学高等教育研究開発センター大学論集第 44 集 (2012 年度) 2013 年 3 月発行: 287—302

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/36524/20150108101854888129/DaigakuRonshu_44_287.pdf

参考 URL

・日本政府観光局ホームページ「年別 訪日外客数、出国日本人数の推移 (1964 年-2014 年)」 <http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/pdf/marketingdata_outbound.pdf> (最新参照 2015 年 10 月 14 日)

・日本政府観光局ホームページ「世界各国、地域への外国人訪問者数ランキング」 <http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/visitor_statistics.html> (最新参照 2015 年 10 月 18 日)

・トリップアドバイザー 「外国人に人気の日本の観光地スポット 2014」 <https://www.tripadvisor.jp/pages/InboundAttraction_2014.html> (最新参照 2015 年 10 月 18 日)

・独立行政法人日本学生支援機構 「平成 26 年外国人留学生在籍状況調査結果」 <http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data14.html> (最新参照 2015 年 10 月 18 日)

・文部科学省 「国費外国人留学生制度実施要項」 <http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1266486.htm> (最新参照 2015 年 10 月 29 日)

・文部科学省 「2016 年度大使館推薦による国費外国人留学生 (学部留学生・高等専門学校留学生・専修学校留学生) の募集について」 <http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/04/23/1357038_01.pdf> (最新参照 2015 年 10 月 29 日)

・ウィキペディア「大学間単位交換協定の一覧」 <<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%96%93%E5%8D%98%E4%BD%8D%E4%BA%92%E6%8F%9B%E5%8D%94%E5%AE%9A%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>> (最新参照 2015 年 11 月 1 日)

・旺文社 教育情報センター 26 年 8 月「私立大「入学定員割れ」、25 年度より 33 校増の 265 大学・45.8%に悪化！」 <http://eic.obunsha.co.jp/resource/pdf/exam_info/2014/0819.pdf> (最新参照 2015 年 11 月 18 日)

・国土交通省 観光庁 「訪日外国人消費者動向調査 調査結果 平成 27 年度 7 月～9 月 期 集計結果」 <<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/syouthityousa.html>> (最新参照 2015 年 11 月 18 日)

・留学生の住環境支援の在り方に関する検討会報告書
<http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1350840.htm> (最新参照 2015 年 11 月 18 日)

・横浜大学 「留学生が困っていることについてのアンケート調査集計結果」 <www.isc.ynu.ac.jp/about/pdf/komattakoto_houkoku_iinkai.pdf> (最新参照 2015 年 11 月 19 日)